

### 国際プラスミッド委員会の報告

1) 1971年11月ハワイで行なわれた US-Japan の合同シンポジウムの際 R 因子を含め, F, Col 因子の命名, 登録法が提議され, 現在これが進行中。これまでエビゾームやブドウ球菌に発見された非伝達性の細胞質性因子を含めプラスミッド (plasmid) と総称することになった。

2) 吾が国に薬剤耐性研究グループが組織され, 年1回シンポジウムが開催されている。1974年の会については近く案内を送る予定。メンバーは約300名に達しているが案内もれもあつて, 苦情が寄せられたので先般大越理事長の承認を経て, 化療評議員全員に案内を送った。事務は群大医学部微生物学教室(橋本 一)がお世話している。

3) 1973年9月アテネで行なわれた国際化療において, 薬剤耐性研究会(Commission on Chemoresistance)が組織され, 三橋がその Chairman に指名された。国際化療の理事会を経て, 会長 Dr. MALEK から正式に指名され, 暫くの間この会のお世話をすることになった。会費不用, 責任のない自由の会であるので, 日本の耐性研究会の方々も, この会のメンバーに推せんしたい予定である。

この会の主な仕事は(1)国際学会の準備,(2)各国で行われた local なシンポジウムの内容の紹介,(3)薬剤耐性菌の保存, その交換,(4)R因子のリスト作成と保存, などである。

4) この会の1つの仕事として1974年ヨーロッパでシンポジウムが企画されている。

Drug-inactivating enzymes and other problems of resistance to antibacterial drugs

Honorary Chairman : S. MITSUHASHI

Secretary General : Prof. L. ROSIVAL

Date : 5 th to 8 th June, 1974

Place : Castle of Smolenice, Czechoslovakia

Main Topics :

1. Beta-lactam antibiotics (Chairman : Prof. M. H. RICHMOND)
2. Aminoglycoside antibiotics (Chairman : Prof. H. UMEZAWA, Vice-chairman : Prof. J. DAVIS)
3. Chloramphenicol
4. Other problems (Chairman : Prof. S. M. NAVASIN)
5. 1975年にPolandで第3回目の国際ブドウ球菌シンポジウムが行なわれる予定でモデレーターの人として三橋が指名された。詳細は追つて通知の予定。

### 投稿規定の一部改訂について

去る12月5日の編集委員会において, 投稿規定の一部を改訂することが決定されましたので, この点ご留意下さい。該当の箇所は, 本号に掲載の投稿規定にアンダー・ラインを付しておきましたから, ご一覽下さい。

### 学会総会の詳細目次について

第21回日本化学療法学会総会の詳細目次を本号に掲載する予定である旨, 前々号(Vol. 21 No. 7)の巻尾に記しておきましたが, 去る12月5日の編集委員会において, 学会プログラムは今後本誌には掲載しないことが決定されましたので, これを中止します。ご了承下さい。

### 訂 正

金尾昌明: プレオマイシンの体内における銅キレート化。Chemotherapy 21(7): 1305~1310, 1973

	誤	正
p. 1307 右段 ↑ 2行	Rf=4.1	Rf=0.41
	Rf=7.0	Rf=0.70
p. 1308 左段 Fig.7	Rf=4.1	Rf=0.41
	Rf=7.0	Rf=0.70